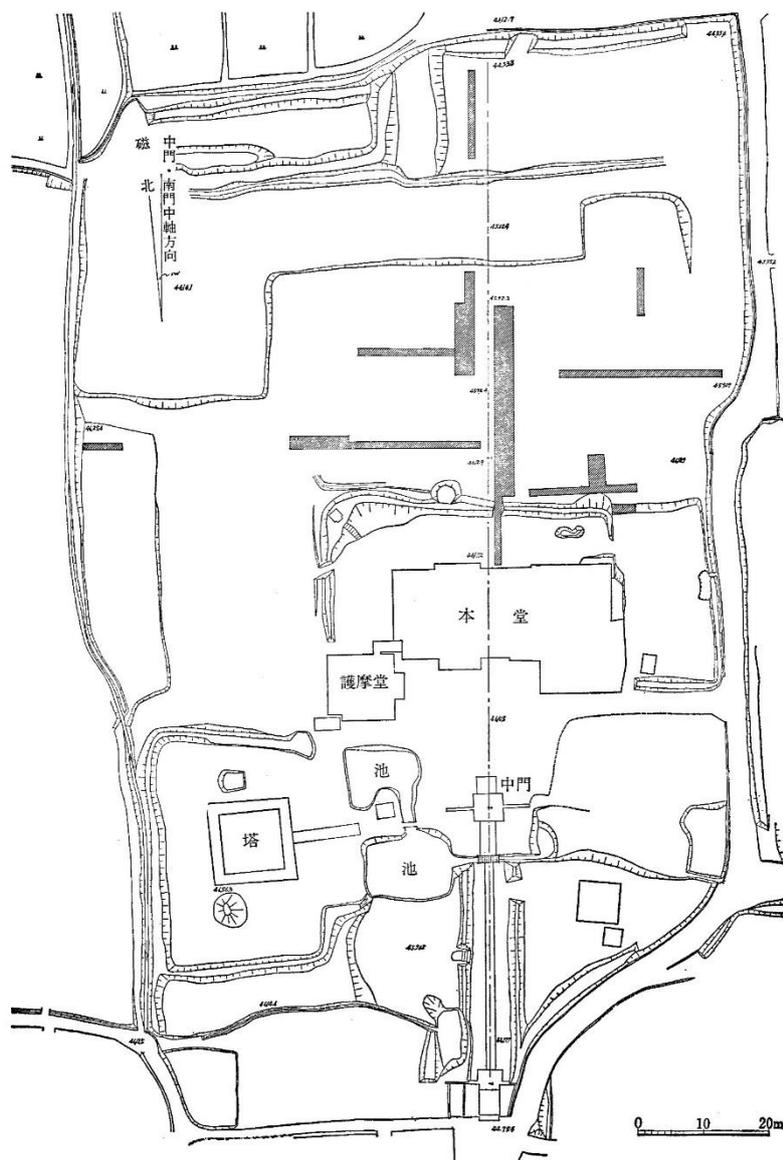


## ●豊前国分寺の再検討 1

豊前国分寺跡は、福岡県京都郡みやこ町国分 279 番地 1 の、豊前国分寺の境内にある。  
まず最初に、「新修国分寺の研究」所載論文によって再検討する。

### 1：伽藍配置と方位：



第 139 図 豊後国分寺地形実測図

(「豊前国分寺地形実測図」を参照)

基本的には不明である。

現国分寺の本堂を「金堂」と想定すると、その北に確認された、東西 30m、南北 20mの基壇は講堂と思われる。

そして現三重塔が昔の礎石を使用しているとみられることから、ここに塔があったと仮定すると、

南大門—中門—金堂—講堂が南北に並ぶ伽藍形式であり、金堂の南東に塔を置くものと考えられると、『新修国分寺の研究』所収の論文「第五 豊前」は記している。

しかしあくまでもこれは想定に過ぎない。

### ★この考察

中門と南大門が現状の国分寺のそれぞれの位置と考えると、その距離が約 40mと近いので、回廊の中に塔を置いた「古式寺院」と思われる。

伽藍の方位は、現状の国分寺の中軸線は磁北から東に 5 度偏しているので、西偏 2 度前後と思われるが、遺構の方位ではないので、これも想定に過ぎない。

## 2：出土瓦による年代判定

確実に豊前国分寺出土と判定できる瓦がない。「講堂」かと思われる遺構を見つけた発掘では瓦は出土せず、現国分寺や教育委員会などが保有する瓦は、国分寺周辺で採集されたものと、他の寺院周辺で採集されたものとが混在している状況なので、瓦で年代を判定することが難しい。

一応「豊前国分寺」瓦と伝えられる資料で判断してみると、以下の通りである。

### a：三重塔周辺で見つかった瓦

#### ・百済系軒丸瓦

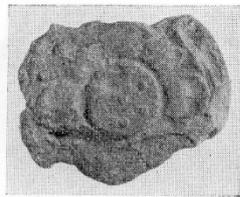
#### 重圏文単弁 8 弁蓮華文軒丸瓦（図 150—1）

⇒これは重圏文素弁（または単弁無子葉）蓮華文軒丸瓦とすべき。

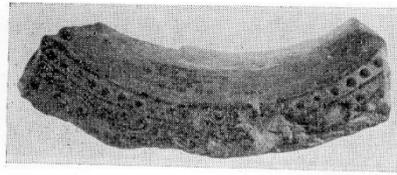
※九州で「百済系」「新羅系」「高句麗系」とされる瓦はみな近畿でいう「素弁」の瓦で蓮の花弁に子葉に相当する浮彫や掘り込みが存在しないもの。近畿では素弁は 6 世紀末から 7 世紀初頭に流行するが、九州では近畿より 50 年以上後に瓦が出現したと定説はしているので、素弁瓦の位置づけができず、朝鮮では素弁瓦が多くでるので、「百済系」「新羅系」「高句麗系」と名付けてごまかしている。

年代も、7 世紀後半から 8 世紀初頭とされ、近畿より 100 年近く後ろに動かされている。

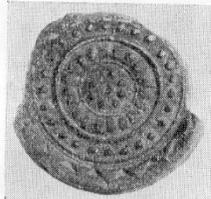
したがって年代は 6 世紀末から 7 世紀初頭。



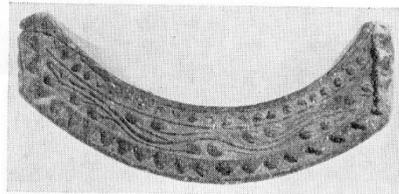
1



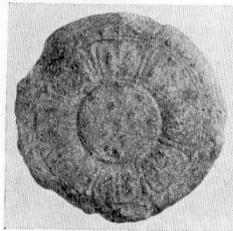
5



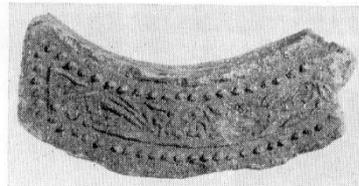
2



6



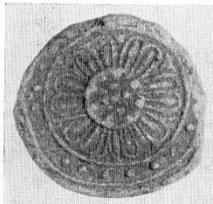
3



7



4



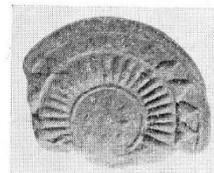
8



9



10



11

第150図 豊前国分寺の瓦

(「豊前国分寺の瓦」を参照)

・般若寺系の19弁軒丸瓦

珠文縁複弁8弁蓮華文軒丸瓦(図150-2)

老司系の7世紀末のものと思われる。

・鴻臚館系の7弁軒丸瓦

珠文縁複弁7弁蓮華文軒丸瓦(図150-8)

7世紀末のものと思われる。

・菊花文軒丸瓦

陽起鋸齒文縁菊花弁軒丸瓦(図150-11)

9世紀平安時代のものと思われる。

b: 国分寺の他の場所で見つかった瓦

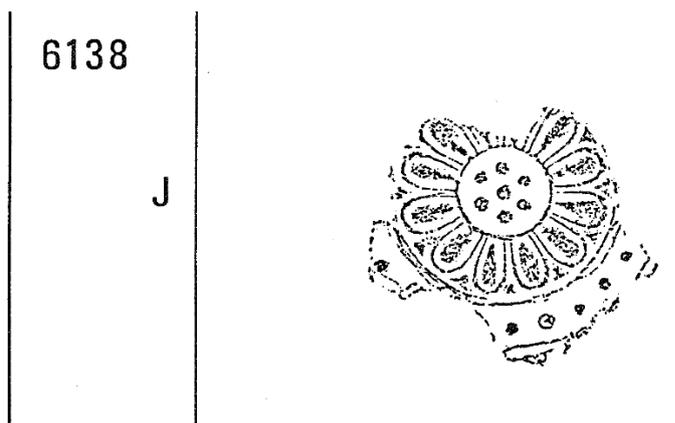
陽起鋸齒文縁単弁19弁蓮華文軒丸瓦(図150-3)

ふっくらとした単弁瓦: 7世紀中頃か?

c: その他の瓦

・珠文縁単弁13弁蓮華文軒丸瓦(図150-4)

細い花卉。平城宮瓦6138Jに似る。

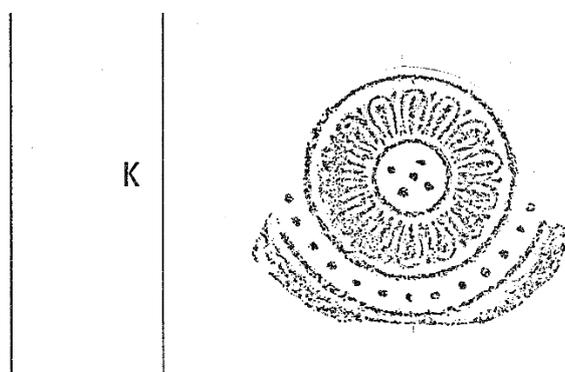


(「平城宮瓦6138J」を参照)

8世紀中頃か?

・珠文縁単弁16弁蓮華文軒丸瓦(図150-9)

細い花卉。平城宮瓦6138Kに似る。



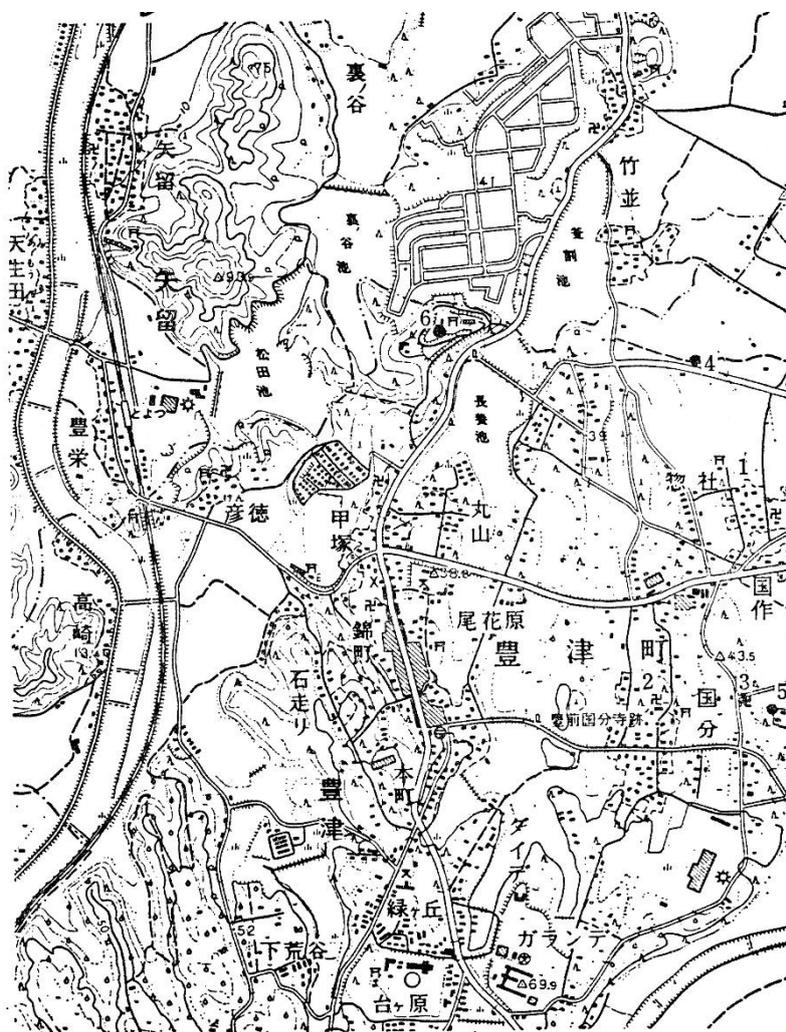
(「平城宮瓦6138K」を参照)

8世紀中頃か？

★瓦からみた伽藍変遷

- ・6世紀末から7世紀初頭（創建） 素弁瓦出土
- ・7世紀中頃 葺き替え 単弁瓦出土
- ・7世紀末 葺き替え 複弁瓦出土
- ・8世紀中頃 葺き替え+改造？ 平城宮系瓦出土
- ・9世紀以降 葺き替え 菊花弁瓦出土

3：国府との関係



- 1 豊前国府推定地 2 豊前国分寺 3 豊前国分尼寺  
4 幸木遺跡 5 徳政瓦窯跡 6 八景山祭祀遺跡

第135図 豊前国府推定地周辺古代主要遺跡分布図(原図註3『豊前国府』より)

(「豊前国府推定地付近遺跡分布図」を参照)

詳しい記述なし。

国分寺の北東、800mほどの所の、総社・国作地域に国府は想定されている。

これが正しければ、国府近傍の寺院であり、国府と密接な関係にある国府寺・国寺の可能性がある。

本報告以後、国分寺は昭和 60 年 62 年に発掘され、本堂の北に東西幅 26.7m で北側に階段を持つ講堂と見られる遺構が確認されている模様。この遺構の方位は西偏 3 度。

さらに国府も何度も発掘が繰り返され、国庁と見られる遺構も確認されている模様。

「みやこ町歴史民俗博物館」が WEB で町史を見られるようにしており、ここに国分寺の発掘と国府の発掘の概要がある。この検討とできればそれぞれの報告書を検討して、さらに考察を深めたい。

2021 年 4 月 8 日。